

第 20 回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議要旨

日時 平成 26 年 8 月 4 日（月）14：00～16：00

場所 鎌倉市役所本庁舎 4 階 402 会議室

出席者：古谷委員長、鷺尾委員、小林委員、藤川委員、太田委員、久本委員、奥野委員

事務局：梅澤部長、奈須次長、齋藤担当課長、山戸課長補佐、齋藤職員

傍聴者：なし

オブザーバー：観光協会 高橋課長

- 議事の概要
1. 開会
 2. 庶務事項
 3. 審議事項
 - (1) 平成 25 年度実績概要について
 - (2) 進行管理状況評価報告書〔平成 26 年度版〕について
 4. その他
 5. 閉会

1. 開会

2. 庶務事項

3. 審議事項

(1) 平成 25 年度実績概要について

事務局から平成 25 年度実績概要について説明を行った。

(委員) 2 ページから 3 ページにおいて、観光協会や商工会議所が行った内容には触れているが、このように表には出ない、市民が独自に取り組んでいた活動に触れていない点が気になる。

(委員長) 観光客数が増えている点をどう捉えているのか。従来、観光客数の谷間となっていた時期に底上げができていたということであれば、評価すべき事項であることから、この時期の観光客数が増えた理由を精査すべきである。

(委員) 観光客数の動向については、マスコミで取り上げられた効果は大きいと考える。しかし、マスコミ頼りになっていてよいのか、という思いもある。観光に対する鎌倉の取り組みが、観光客一人あたりの消費額増加を狙うのか、それともより大勢の観光客を呼び込もうとするのか、方針を考えてイベント等に取り組むべきである。

(委員) 2、3、5 月の観光客数が増加している点に非常に注目している。19 ページを見ると各行事の観光客数は増えていないことが分かるので、日常的な観光客数が増えていると考えられる。比較的近

隣に在住している方々が繰り返し訪れているとも思われ、これはとても良い傾向である。推測の域を出ないが、ホームページ等で観光客が閑散期を狙って訪れているという可能性もある。

(事務局) 45 ページのアンケート結果によれば、鎌倉に初めて来たと答えた観光客が約 24%にのぼり、昨年度より増えている。このことは観光客の裾野が広がっていることを意味していると考えている。

(委員長) 2、3、5月の観光客数が増加した理由を分析して、次回までに記載してもらいたい。

(委員) ホームページの月別閲覧状況も参考にして、分析するように。

(委員) 18 ページの月別延観光客数を地域別に集計すると、新たな情報が見えてくると思う。また、延観光客数が 2,000 万人を超えたということだが、その調査方法を欄外にでも書いておいた方が、一般市民にも分かりやすい資料になる。

(委員) ツイッターや SNS 等で発信される情報に惹かれて、人が呼びこまれる傾向があると思う。市内のどんな場所でどれくらい情報が発信されているのか、分析しているか。

(事務局) そのような分析は行っていない。

(委員長) PDCA サイクルも分かるが、この資料には市民向けの説明を果たすという側面もあると考えているので、分かりやすい記述を心掛けてもらいたい。

(委員) 20 ページに観光消費額の情報が掲載されているが、経済波及効果は分析しているのか。この点が明確に説明できるのならば、観光施策への取り組む意義について市民向けにもアピールしやすくなる。

(事務局) 政策創造担当という別の課が算定したデータがあり、これもひとつの指標として活用できると考えている。また、観光庁が分析している段階であり、これが公表されれば何らかの見方を示すことができると思う。

(委員長) 国の調査は国全体のものであり、鎌倉に限ったデータではない。政策創造担当が算定した情報があるのならば、観光事情に組み込んで発表すればよい。

(委員) プレミアムツアー、クラウドファンディングなど、一読して意味が通じにくい用語が多くあるので、用語解説などの説明を加えた方がよい。

(委員長) 小学校 6 年生でも分かる資料にしてもらいたい。

(委員) 8 ページの宿泊客数が目標値に達していないのが気になるが、宿泊施設の稼働率については、情報を持っているか。

(事務局) 宿泊施設からの調査票の回答から、5 割程度と認識している。

(委員) 21 ページのグラフを見ると、平成 15 年度に突出して宿泊客数が多いので、その理由を知りたい。

(委員長) 基本的には、県で調査をするのが良いと思うが、宿泊施設に、どのような人が泊っているか、宿泊者の内訳についてもっと調べた方がよい。例えば、リタイア層が多いと言われるが実際にそうであるのか、など確認したい。また、観光事情について、どのくらい閲覧されているのか、配布数とホームページの閲覧数を調べてもらいたい。

(委員) 観光基本計画推進協議会に、我々進行管理委員会のメンバーもオブザーバーとして参加させてもらいたい。協議会で何をどう議論しているのか聞きたいし、この協議会をもっと活用すべきであると考えている。

(委員長) これからの時期は、ハード整備と国際観光が重要なテーマとなる。

(委員) トラベルマートでは、具体的な観光商品の案内を配った方がよい。イメージアップのための活動だけではなく、具体の情報を提供すべきだ。

(2) 進行管理状況評価報告書〔平成 26 年度版〕について

事務局から進行管理状況評価報告書〔平成 26 年度版〕について説明を行った。

(委員) 基本計画の進行管理を行う委員会なので、計画の当初の目的と現状がどうなっているのか、明文化する必要がある。

(委員長) 計画に対してどこまで出来ているのか、という見せ方が必要であり、これを一段別組で項目立てすべきである。

(委員) アクションプランの個別評価の書き方については、昨年、新しい取り組みの内容に触れた上で評価を書くようなスタイルに改めたはずだが、また元に戻ってしまっている。前年の議論を踏まえて書いてもらいたい。

(委員長) これらは委員会から実施主体に対する「宿題」に相当するものなのだから、「期待している」などといった表現ではだめだ。また、できないことはできないとはっきり書くように。なお、オリンピック開催という表現があるが、ここではパラリンピックについても併せて言及しなければならないところであり、そのような不用意さが目につく。

(委員) 新しい取り組みをまとめて書くとインパクトがある。観光施策というものは、5 年先を見据えることも難しい世界なので、そのような難しさを書き込みたい。外国語パンフレットをいくつかの主体が作成しているが、これは非常に重要な取り組みであると考えてるので、プランになかった項目であっても書き込みたい。

(委員長) 57 ページに SNS に関する記述があるが、明確な根拠があるのかどうか疑わしい。

(委員) この紙面上で、観光施策を実際に動かすための、関係者のラウンドテーブルのようなものを立ち上げることを提案できないだろうか。国や県、JR、旅行エージェントなどを加えて、京都で行っているような取り組みを想定している。12 ヶ月ではなく、18 ヶ月先を見据えて、各主体がやれることを提案し、動いて、合意形成するような組織にしたい。基本計画の更新に合わせ、新たな 5 年間のスタートに合わせればタイミングもよい。

(委員長) 現在の観光基本計画推進協議会の機能が不十分であると感じているのであれば、これを解散して改組すればよい。61 ページに新たな基本計画策定に向けた記述があるが、ここはもっと具体的な仕組みなどについても書く必要がある。また、60 ページには公衆無線 LAN についての記述があるが、すでにこれは研究段階ではなく実施段階であるのだから、予算をつけるのかつけないのか、やるのかやらないのか、という記述とすべきだ。

(委員) 決済環境の整備について記述すべきである。

(事務局) 決済環境の整備については、各店舗の投資を伴うものでもあり、商工会議所も主導できない状況がある。

(委員) ここで「決済環境を整備する」という方針が出されたならば、その方針を受けて働きかけることもできると考えている。

(委員長) ここではムスリム対応について何ら書かれていないが、何も書いてないと「何もしない」というメッセージになる。市が「やる」という方針を出すことによって、観光協会や商工会議所が動くことができるということを認識すべきだ。

(委員) ムスリム対応については、政教分離の問題もあり、配慮を要する。県では事業者等を集めてセミナーを開催し、まずはムスリムに関する知識を共有しようという取り組みを行った。鎌倉市もこれに参加していることから、県と共同で勉強しているという旨を記述してよいのではないか。

(委員) 政教分離の部分については、「それぞれの考え方に根差した対応」ということであれば問題ないのではないかと思う。

(委員) 鎌倉の観光の概念というものを書くべきである。個々の案件について、観光なのか、文化財なのか、それとも公園なのか、といった区分けの議論になることがあるが、そういったものを全てをひっくるめて観光の課題である、という趣旨を盛り込むべきだ。

(委員長) 観光の問題に限ったものではないが、市長が地元企業などとのトップセールスの中でアピールしている案件がいくつかあったと思う。これらを書き加えてもよいのではと思うので、追記してもらいたい。

(委員) 鎌倉検定合格者数に係る累積人数の情報がほしい。また合格者がどのように観光施策に役立っているのかを知りたい。

(委員) 鎌倉検定合格者の活用については、頓挫を繰り返している状況であり、非常に難しい課題である。

(委員長) そういった状況であれば、「観光施策に生かすためのアイデアが期待される」という記述は適当ではない。

4. その他

事務局から次回の会議日程について報告し、近日中に正式な通知を行う旨を説明した。

以上